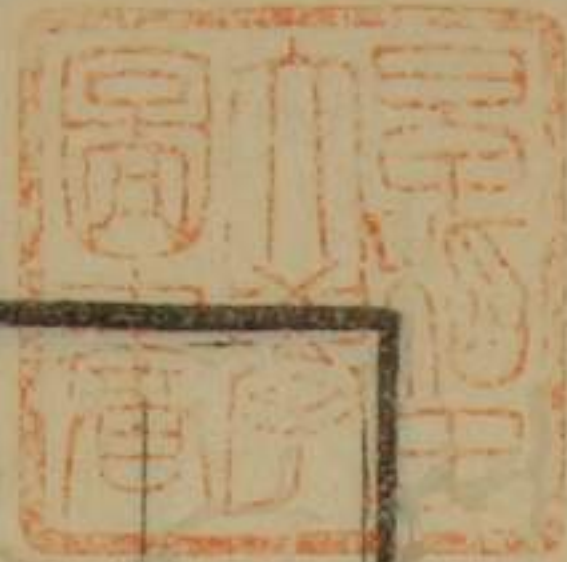


114
A1074
2



維明治十四年九月廿六日

天
正十一年四月
贈
候
印
寄

殿下

至尊ニ代テ

御覽ニ北海道開進會社第一耕場ニ賜フ
本社無尤高潔海嶽無比感戴不知所措
謹テ身言ノニテ奉陳ス本場開墾著手
ノ始ハ明治十二年秋ニ在リ其日尚淺ク
百般未タ整理ニ至ラズ以テ

御覽ヲ贖スニ口之ルモ無レ且本場地質
最良ニ非ラス風害全ク脱レ難シ之ヲ

本道各耕地ニ比スル中ハ乃チ下等部中
ニ屬ス_臣始茲ニ着キスルニカ_臣開拓大書
記官時任為基_臣ヲ識_臣テ曰ク此地
滿面荆棘蟠根犁鋤ニ便ナラス隨
テ素質モ亦タ良ナラス他日或之ヲ棄
テ、他ヲ撰フニ至ルベシ寧_臣ロ今ヨリ他ノ
良地ヲ撰メ、如何ト_臣答_臣フルニ此地已
港ニ近接シ旅客光_臣ツ見ル所_臣而
テ荒蕪如此_臣後ニスルニ忍ビガ_臣チ
以テス為基_臣ヲ領_臣ス遂_臣ニ開_臣拓_臣シ

僅ニ唯此形_臣也_臣及_臣フ_臣テ_臣知_臣ル_臣地_臣質_臣至
沃_臣非_臣スト_臣雖_臣凡_臣鋤_臣カ_臣ヲ_臣用_臣エル_臣中_臣ハ_臣サ
ス能_臣ク_臣耕作_臣ニ_臣堪_臣エル_臣者_臣ト_臣况_臣ニ_臣他_臣ノ_臣始
ヨリ肥沃ヲ認定スル地_臣於_臣テ_臣チ_臣ヤ_臣實_臣是_臣ニ
北海道、耕作ニ適合シ陸産饒出
スルノ地タル毫モ疑_臣ヲ_臣客_臣ル_臣、所_臣ナ_臣シ_臣開_臣
拓_臣便_臣ノ_臣大_臣保_臣護_臣ヲ_臣蒙_臣リ_臣開_臣墾_臣興_臣農_臣事_臣
業_臣ニ_臣服_臣從_臣ス_臣ル_臣ヲ_臣得_臣爾_臣後_臣日_臣夜_臣勞_臣心_臣サ_臣石
思_臣疑_臣ヲ_臣勤_臣カ_臣ス_臣以_臣テ_臣鞍_臣國_臣萬_臣一_臣答_臣へ
昭代ノ民義ヲ盡_臣サ_臣ント_臣欲_臣ス_臣然_臣凡_臣臣_臣原_臣ト

農家ニ生レズ百幸迂濶未タ大方ノ嗤笑ヲ
脱ル、能ハス唯偏ニ高麗耐忍批言テ自
ラ欺キ又々人ヲ欺カザルキ期ス臣常ニ以爲
ラクニ百萬口ノ士族各地ニ坐食シ十有
一州、大國北海、存在ス坐食ノ士族ヲ
シテ能ク北海ニ移ラシムルハ一二年兩便
士族ハ永ク資立産ニ就キ談道ハ廣ク
田畝ニ歸ス隨テ輸送ノ物件ハ増シ全
國ノ經濟ヲ助士族移北ノ策ハ今
日ノ急務ナリト而シテ實際之ヲ

經驗スルニ應ニは齊ノ士族既ニ農事
ニ堪ユル者殆ニト抑シテ臣胸算屢
々相背キ浩歎ノ餘遂ニ一日以下ノ
少年ヲ勸メテ之ヲ移シ以テ純農辰ニ
歸ヤシムル外他術無キヲ曉リ乃チ其ハ
議ヲ草スルト別段ノ如シ今現ニ
御覽見中ニ在ル白衣ノ少年ハ三皇
岡山廣嶋和歌山生ノ士族ニシテ
過日先着スル者ナリ尋テ廣嶋和
歌山其他各縣ヨリ移ラント欲スル者

居多既ニ途ニ就ク者数名アリ顧フニ
漸次年々増員終ニ無産ノ士族ヲ
シテ北海道歸農ニ相傾カシムルニ至ル
井ハ則前ニ所謂ル一季兩便ノ実ヲ得
ルニ度幾カルベシ是^臣ガ苦中ノ一樂
誠ニ注意ヲ極ムル所ナリ而シテ拾力
所歩ノ開墾十五年間ノ事業実ニ
易々タルモノニ非ラス其任重ク其道
遠シ且^臣齡初老ヲ過ク為メニ亦々
前途ノ事^臣ヲ慮ニ^臣ヲ得ニヤ然

氏幸ニ石川縣上族長尾助信林顯
三高知縣士族宮山奇竹間亮及ヒ
^臣後自助等事ニ幹シテ電^臣教^臣情
ラズ耐忍^臣ニ勝レリ且創設以還心ヲ
本社ニ尽シカヲ開墾ニ用ヒ骨ヲ北陸ニ
埋メ以テ遺^臣憾トセサル者亦々数十名
アリ假設ヒ^臣中コ口^臣斃ルト雖^臣助信
以下相繼テ此業ヲ成スニ足ルヲ信ス
况ヤ^臣精神未タ甚タ衰ヘス數年ノ
星兩相以テ能ク社務ヲ整理シ事業

ヲ開進ニ徐ク其規模ヲ更張セシト
希望ス今日本場ノ

御覽ヲ奉賜シ臣及ヒ助信以下社

貞一般感恩肺腑肝ニ徹シ益々奮勵

ノ氣ヲ振作シ他日必ス

天恩萬分ノ一ニ奉答スル所アラント

欲ス茲ニ社業ニ係ルニ三ノ件ヲ概

纂系シ謹テ止ル誠恐誠惶頓首

々々

北海道開進會社社長

和歌山縣士族

岩橋轅輔百拜



北漢書卷之四

